

数理科学研究科

数理科学研究科創設の目的は、現理学部数学教室、教養学部数学教室、教養学部基礎科学科数学部門を各々の学部から分離して大学院大講座化することにより、東京大学における全学的な数学教育と数理科学（Mathematical Sciences）の研究の発展に効率よく寄与することである。創設の背景には、大学設置基準の大綱化に伴う大学教育の見直しと、東京大学の大学院重点化の二つの観点があることは言うまでもないが、数学専攻の特殊性として、理学系のみならず工学系、社会科学系などの広い研究分野で数理科学の重要性が高まり、社会でも数学的リテラシーを身につけた人材が広く求められている事実がある。例えば、1990年度から数学教室に開講された「予測制御寄付講座」の招へい教授であるマルコビッチ氏（1990年度ノーベル経済学賞受賞）の専攻分野が、ポルトフォリオ理論であることから分かるように、数理科学の範囲はこれまでの伝統的領域を越えて、真に学際的なものになりつつある。このようなことを踏まえて、独立した研究科として数理科学の研究

・教育を担い、社会のニーズに応えられる体制を確立することが必要である。設置の暁には、教養学部では学科目「数学」と「基礎数学」を兼担し、理学部では大学科目「基幹数学」を兼担することになるが、近い将来、独立部局として駒場キャンパス内に、独自の建物、施設を確保する予定である。これは、教養学部前期課程において数学が果たす役割の重要性を鑑みてのことである。

文部省の概算要求原案では、数理科学研究科に6大講座からなる「数理科学専攻」をおき、修士課程（入学定員51名）、博士課程（入学定員30人）の教育に66名の教官（内6名が助手）があたることにしている。

研究科創設に関連したことでは、TA制度の整備、国際社会への貢献の観点からの積極的な留学生受け入れ、客員ポストの確保、寄付講座の強化推進等、課題も多いが、数理科学の研究・教育のより良い環境作りのため、鋭意努力したい。

（砂田利一 数学教室教授）

